

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【公表番号】特表2008-502282(P2008-502282A)

【公表日】平成20年1月24日(2008.1.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-003

【出願番号】特願2007-527622(P2007-527622)

【国際特許分類】

H 04 N 7/173 (2006.01)

H 04 J 11/00 (2006.01)

【F I】

H 04 N 7/173 6 3 0

H 04 J 11/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月12日(2008.2.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

受信器であつて、

前記受信機が、

受信器アナログ信号をデジタル信号データ・ストリームに変換するA/D変換器であつて、前記デジタル信号データ・ストリームがガード・セグメントによって分離されたシンボルを含む、A/D変換器と、

I成分およびQ成分の第1セットを作るI/Qデモジュレータと、

少なくとも前記受信器の初期化フェーズ中に、I成分およびQ成分の前記第1セットを使用して、搬送波信号のオフセットを推定し、前記A/D変換器を調整するための信号を提供する第1搬送波信号オフセット・エスティメータと、エクストラクタ用のシンボル同期化信号を生成する第1シンボル同期化信号ジェネレータと、

I成分およびQ成分の前記第1セットを使用するガード・セグメント長デテクタと、前記デジタル信号データ・ストリームから前記検出された長さの前記ガード・セグメントを識別し、除去するエクストラクタと、

複素I成分および複素Q成分の第2セットを作るために、前記デジタル信号データ・ストリームの前記シンボルを復調するFFTデモジュレータとを含む、受信器。

【請求項2】

前記FFTデモジュレータが、複素I成分および複素Q成分の前記第2セットを作るために、一時に2つのシンボルを復調する、請求項1に記載の受信器。

【請求項3】

前記FFTデモジュレータが、2K要求モードに関する4Kモードおよび8K要求モードに関する16Kモードのうちの1つで動作する、請求項2に記載の受信器。

【請求項4】

I/Qデモジュレータ、前記ガード・セグメント長デテクタ、前記第1搬送波信号オフセット・エスティメータ、および前記第1シンボル同期化信号ジェネレータが、前記受信器の前記初期化フェーズ中だけに動作する、請求項1に記載の受信器。

【請求項 5】

少なくとも前記受信器の前記初期化フェーズ後に、前記FFTデモジュレータからのI成分およびQ成分の前記第2セットを使用して、搬送波信号のオフセットを推定し、前記A/D変換器を調整するための信号を提供する第2搬送波信号オフセット・エスティメータと、前記エクストラクタ用のシンボル同期化信号を生成する第2シンボル同期化信号ジェネレータとを含む、請求項1に記載の受信器。

【請求項 6】

前記I/Qデモジュレータ、前記ガード・セグメント長デテクタ、前記エクストラクタ、および前記FFTデモジュレータとして動作するようにプログラムされたプロセッサを含む、請求項1に記載の受信器。

【請求項 7】

前記FFTデモジュレータが、直交周波数分割多重デモジュレータである、請求項1に記載の受信器。

【請求項 8】

前記受信器が、デジタルビデオ放送受信器である、請求項1に記載の受信器。

【請求項 9】

前記受信器が、めいめいの受信器フロント・エンドおよびA/D変換器にそれぞれ接続された少なくとも2つのアンテナを含む、請求項1に記載の受信器。

【請求項 10】

前記少なくとも2つのアンテナが、直交して位置決めされ、前記受信器フロント・エンドが、位相シフタを含む、請求項10に記載の受信器。